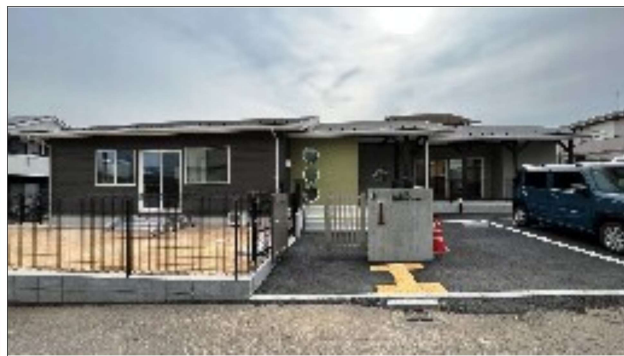




No.65
 2024.6.14
 発行；特定非営利活動法人
 所沢市学童クラブの会
 広報委員会
 所沢市くすのき台2-20-6
 Tel；04-2994-6753

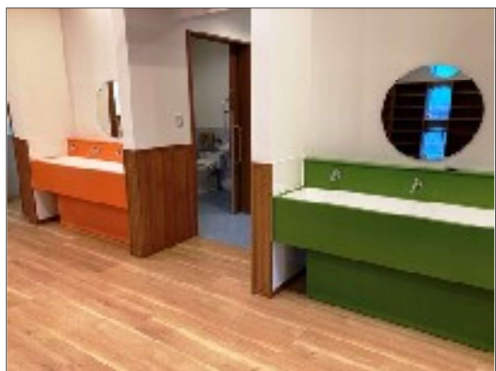


上新井すぎのきクラブ開所しました！

二〇二四年三月末の上新井児童クラブ廃止に伴い、民設民営の上新井すぎのきクラブを新設、四月一日に開所しました。四月七日に行われた開所



式では、小野塚市長をはじめ、お世話になった方々にお越しいただき、感謝の気持ちを伝えるとともに新施設を見ていただく機会となりました。上新井すぎのきクラブは、当会として、初めて定員八十八名（二支援）の学童保育施設づくりに挑戦したクラブとなります。四十名が過ごせる部屋を二つづくり、ロッカー、本棚、おもちゃ棚、畳のスペースをそれぞれの部屋に設置。八十名が一つの部屋で過ごすのではなく、四十名ずつのゆとりのあるスペースでゆったり生活できるように、子ども



たちの落ち着く場所が確保できるようにという思いを込めて施設づくりに取り組みました。また、木造で光がたくさ入る明るい施設になっているのも特徴の一つです。開所式より子どもたちからのご要望の一部です。「部屋がとても広くなったと感じました。みんなの遊ぶスペースが増えて、窮屈じゃなくなっとうれしいです。僕は本を読むのが好きなので、本が増えてうれしいです」「最初学童に入った時、広くておしゃべり感を感じました。勉強タイムでは、クラブが分

かれていてうるさくなくて、勉強がしやすかったです。」「玄関を開けた瞬間、木の香りがして、まるで森の中にいるようでした。入ってみると、ロッカーが大きくなり、一人一人にウォールポケットがついたから楽になりました。学童前がコンクリートではなく、砂になったのでなわとびなど早くやってみたいです。水道が増えたので手を洗うのが楽になりました。」「新しい施設は校庭も近くなり、子どもたちはのびのび過ごしています。地域のみなさまのご理解とご協力もあり、つながりの大切さも実感しているところです。今後子どもたちとともに学童の生活をつくりながら、地域に根ざした学童保育を目指していきます。」

※国の放課後児童クラブ施設及び運営基準では一支援はおおむね四十名をわけています。

はじめての学童保育

一年生エピソード

中央学童クラブ



今年度は、一年生七名を迎えてスタートしました。

入所したばかりの頃は、初対面の子が多く、緊張している様子でしたが、一ヶ月経つと学童の生活にも慣れ、クラブに馴染んでいる様子です。男の子の間では、「ベイブレード」が人気です。五年生の男の子が、遊んでいる姿を見て、「凄い！僕もやりたい！」

と興味津々でお兄さんたちに聞きながらやり方を覚え、毎日、「スリー・ツー・ワン・ゴーシュー！」のかけ声で対戦が始まります。やり始めた頃は、お互いに使いたい気持ちが強くなり、取り合う場面もありましたが、今は徐々に譲り合い、順番を決めるなどして仲良く遊べるようになってきました。



女の子に人気なのは、「トランプ」「おままごと」です。トランプは、ババ抜きが好きで、「もう一回やる！」と勝つまで何度もやる姿が印象的です。おままごとは、外で草を集めて、木を包丁に見立てて切り、オリジナルのお料理を作って遊んだりしています。子どもたちの想像力と遊びの取り入れ方が上手で感心します。

今後遊びを通して人とのつながりを大事にしてほしいと思います。

北秋津ゴロニャン学童クラブ

ゴロニャンクラブでは、年度末に班を決める話し合いやポスター作りをして、年度に向けての準備をしています。今年度は「一年生もポスター作りに加わって、班のみんなと仲良くなりたい！」という願いもあり、初日にポスター作りをしました。

緊張の面持ちでドキドキの自己紹介を終え、班長さんがメンバーを発表、机に移動して初めての班作業がスタートしました。「どんな名前がいいかな？」と緊張している一



年生に優しく声をかけてくれる班や「〇〇班がいい！」としっかり意見を言える一年生がいる班：雰囲気は様々ですが、班長さんを中心にしっかり意見を取り入れて名前決めやポスター作りを進めてくれていました。そんな一年生も学童に慣れてきて、今ではおしゃべりをしながらおやつを食べたり、上級生と一緒に遊んだりと楽しんでいます。

また、遊びにも積極的な一年生。卓球では上級生がラケットの持ち方や打ち方のコツを



一生懸命教えてくれて、学年問わず一緒に遊んでいます。

これからも学童の遊びや生活の中で、学年問わずたくさん子どもたちと関わり、たくさん経験をしてほしいと思います。

学童クラブの会のHPはこちらから！



OBにインタビュー

後編

宮前学童

卒業して六年たった今、学童でアルバイトをしてきている五人にインタビューしました。前号の二人につづき、後編の三人をお届けします。

アンケート 質問項目

- 一、学童で印象に残っている思い出を教えてください。
- 二、今だから言える！というよいなことはありますか？
- 三、今自分が学童で働いてみての感想を聞かせて下さい。



みずきちちゃん

①高学年合宿で、自然の中を歩いたり手打ちそばを作ったりと普段はできない様々な体験をすることができました。

今でも会っている学童の同期ともう一度みんなで山のふるさと村に行こうと計画しているのを昔を思い出してきたいと思います！

③自分が子どもとして通っていた時にはこんなに周りの指導員たちが頑張ってくれていると思っていなかったので実際に自分がやってみて改めて感謝の気持ちが湧きました。昔、面倒を見てもらっていた指導員と会えるのは嬉しいですね。

あおいちゃん

①日常では六年生になってから。夏休みは百人一首、学校の校庭ではバスケ、おやつ時間は六年だけ特別に事務室で食べたりにして、今まで以上に仲も深まって楽しかった記憶があります。

行事は五年生の時に行った高学年合宿。みんなでケビンに泊まってカシーを作ったり陶芸したことが一番の思い出です。今度同じ場所に七人で行ってきます！

②四、五年生の時は公園や友達の家で遊ぶことのほうが多くて、辞めてもいかなって思っていたけれど、六

あかりちゃん

①学童で過ごした日常から行事、全てのことが大切な思い出ですが、高学年合宿が思い出に残っています。

私は、料理が苦手だったので皿洗いを率先してやっていて、指導員が「よく気が利くね」と褒めてくれました。自分の中では、料理に関わることができずに申し訳ないという気持ちだったけど、みんな得意不得意があってそれを補い合って生活しているのだということがわかったし、指導員が一人一人に向き合ってくれているとすごく嬉しかったです。

また、ホール全体を使って作った段ボール迷路はとも記憶に残っています。あんな体験は、学童でしかできないし、この先の人生でもやることはないだろうと思います。みんなで限られた段ボールを使ってどう

年生になってからは本当に毎日楽しかった記憶があって辞めなくて良かったです。

あとはお誕生日のリクエストおやつが大好きだったので、よく友達に何をリクエストしたのか事前に聞いて、そのおやつが出る時だけ学童に行ったりしていました(笑)

③小学生ってこんなに元気なのだ！？と驚くこともあるし、三年生くらいの子が一年生に対してお兄さんお姉さんして、私たちの時こんなに精神年齢高かったっけ！？と感心することもありました。ゲームがこちらの予想以上に強い子がいたり、す

したらより高度な迷路が作れるか話し合ったのをよく覚えてます。

②学童での体験は、自分にとってとても大きな影響を与えてくれたということです。私は今十九歳で、学童では約六年自分の人生の中では三分の一の時間を過ごしました。当時は楽しいだけの時間だったけれど、今となっては考えて見ると普通に過ごしていたらできないような経験をたくさんすることができました。例えば遊びの中でもどうしたらうまくいかなどの試行錯誤、人間関係を築いていく能力などは、学童で身につけてきました。

また、今も仲のいいかけがえのない友人も学童を通して出会うことができました。異なる学年の子と遊ぶことってなかなか少ないと思うけれど、学童では、当然だったのでリ

る賢い子なかもいて笑、見ているととても楽しかったです。あとはお迎えが来るとどんなに盛り上がりたって、「お父さんお母さんが一番」になるところがとても可愛かったです。

私はほとんど人見知りをしないのですが、それは学童の頃にいろいろな学年の子と接したり、たくさんものに触れる経験があったからなのだと今の子どもたちをみて感じました。

ダーシップの力や協力する大切なことも学ぶことができました。

③働いていると、低学年の子から高学年の子まで、広く見ることができるようになりました。やはり歳を重ねるにつれて、だんだんと子ども達も成長する様子がよくわかります。高学年のお兄さん、お姉さんは低学年の子達がわがままを言っているのを聞いてあげたり、一緒に遊んでいる様子は七年前と変わらない雰囲気を感じます。

自分が面倒を見る中で、少し難しいと思ったのは、子どもたちの喧嘩の仲裁です。どちらにも言い分はあって、お互い譲らない状態の時、大人の中では当たり前なことでも子どもたちの中ではまた違った正義などがあるんだということに気付かされました。



この人

地区長紹介



江原佳世 指導員

南地区 地区長

山口学童クラブ

地区の指導員は、みんなで協力して支え合おうという気持ちが強くと、地区指導員会でも、他クラブの保育を共に考え、意見を積極的に出しあい保育が豊かになるような話し合いがいろいろあります。

地区長としては、以前から心がけていたことですが、経験年数の

若い人たちが、「これ言って大丈夫かな?」と思うようなことでも安心して自分の意見が言える雰囲気づくりを意識しています。指導員数も多い分、色々な視点や意見があると嬉しいです。画一的な視点にとらわれず、色々な角度から保育を検証し、指導員として力量を高められるようにしたいです。

先日、十五年ほど勤務していた上新井学童クラブのフィナーレ会に呼んでいただき、OBOGや保護者百名以上と再会できました。一人ひとり違った個性をもつ子どもたちが共に生活しているのが色々なことがありました。楽しいことも沢山ありましたが、時に保護者と一緒に悩み考えさせられるような事もありました。時を経て大きくなった子どもたちの姿を見て、保護者と「あの時は・・・」と成

長を喜び合えて良かったです。子どもたちが、学童で「こんなことしたよね。あったよね。」と覚えていてくれたことも嬉しかったです。私との記憶に叱られたことをあげる子が多くこれは大失敗ですかね。(苦笑い)

指導員として大切にしていることは、私たち大人からみると「なぜ?」と思うような子どもたちの行動でも何かしらの理由があると思っています。目に見える行動だけにとらわれず、子どもの気持ちを考えてることを大切にしています。その為に、クラブの相方指導員とも子どもたちの話を沢山するようにしています。

子どもへは、人とのつながりを大切にして欲しいと思います。人とのつながりは、あらゆる場面で

自分の力となると思います。一緒に何かをしてくれたり、気持ちに寄り添ってくれたり、思いを共感してくれたりする人がいると心強くなり、前に進んでいく支えになると思います。

この広報誌にも掲載されていましたが、OBOGとの再会や連絡は、指導員にとっても嬉しいことです。学童を巣立った後ふと学童の事を思い出したら、ぜひ学童や学童クラブの会のイベントに顔を出してくださいね。

次はこの人



編集後記

写真は、今年の三月末に二十三年使わせていただいた公立上新井すぎのこ児童クラブのフィナーレ会で上新井学童のOBOGと保護者が思い思いの学童への感謝を記した「落書き」。よく見ると「ありがとう」「二十三年間おつかれ学童」「よかった!あそべて」「すぎのこ大好き」「子どもたちの成長を見守ってくれてありがとうございまして!」など壁や自分が使っていただろうロッカーの中にいっぱい書きめぐらされている。そんな「落書き」に心が震える。

「別れと出会う」「おわりとはじまり」「別れ」や「終わりはジ・エンドだけではない、かけがえのない思い出や生活の糧を伝えてくれる。

そして、若い人たちがその糧をバネに新たに創り出していく。文中幾度となく登場する「つながり」。今年も「みんなでつながる がくどうほいく」を言葉につなぐの輪を広げていきたいですね。



松尾 徹